


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」









項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、家電大型専門店、ホームセンターが弱含んでいるものの、スーパーに底堅さがみられ、コンビニエンスストア、観光等が緩やかに持ち直していることから、全体としては持ち直しつつある。生産活動は、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直している中、食料品で持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているほか、パルプ・紙で持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しつつある」

スーパーは、衣料品や身の回り品が堅調であるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、ソフトドリンクや米飯類等に動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直している。ドラッグストアは、日焼け止め等の季節商品や医薬品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫等に動きがみられるものの、テレビやDVDレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、園芸用品やレジャー用品に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。百貨店は、衣料品や身の回り品、化粧品等に動きがみられることから、全体としては持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、小型車は前年を下回っているものの、普通車及び軽乗用車は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。観光は、個人客が増加しているほか、団体客にも動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直している。海外旅行は低調となっているものの、国内旅行は各種支援策の効果などから緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加によって、衣料品やトラベル用品の動きがよくなっている。(スーパー)
- 飲食料品は、生鮮食品を中心に価格上昇の影響による買い控えがみられるものの、引き続き総菜や冷凍食品の動きはよい。(スーパー)
- 来店客数が回復しているほか、外出機会の増加によりペットボトル飲料やおにぎり等の動きがよくなっている。(コンビニエンスストア)
- 天候がよく気温の高い日が多かったことから、冷たい麺類やアイスクリームの売上が好調だった。(コンビニエンスストア)
- 外出機会が増加したことから、日焼け止めや制汗剤が好調に推移している。(ドラッグストア)
- 咳止め薬や解熱鎮痛剤、抗原検査キット等の動きがよかった。(ドラッグストア)
- エネルギー価格の高騰により、省エネ性能の高い高付加価値商品の需要が高まっている。(家電大型専門店)
- オリンピック需要の反動や、インターネットで各種コンテンツを視聴する顧客層の拡大によって、テレビやDVDレコーダーの動きが鈍くなっている。(家電大型専門店)
- 天候がよく園芸用の散水用品が動いたほか、バーベキュー用品等の動きがよかった。(ホームセンター)
- ホームセンター以外でも取扱いのある日用品は、一般的に動きが鈍くなっている。(ホームセンター)
- 来店客数が回復しているほか、外出機会の増加により、衣料品やバッグ等の身の回り品、化粧品等が好調に推移した。(百貨店)
- 半導体不足や部品調達難の影響の緩和により生産に回復の兆しがみられ、長期の納車待ちが少しずつ解消されつつある。(乗用車)
- 行動制限がないこともあって個人客が増加しているほか、バスツアーでの利用客も少しずつ増加している。(観光)
- 第7波の感染拡大時には回復のペースが鈍化したのが、以前の自粛ムードのような影響はない。県民割も利用されており、予約状況は好調である。(旅行)

■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

汎用・生産用機械は、供給面での制約が緩和されたことから、緩やかに持ち直している。食料品は、販売価格上昇の影響がみられることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。パルプ・紙は、原材料等の価格上昇の影響により、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。こうしたことから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 上海ロックダウンによる部品供給不足の影響が緩和したため、生産量は増えている。(汎用・生産用機械)
- 販売価格改定の影響から低価格帯商品などへの消費移行がみられ、需要が減少している。(食料品)
- 原材料等の価格が上昇しており、生産しても赤字になるため、生産量を落としている。(パルプ・紙)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を上回っている。

- イベントの開催を受けて、労働者派遣業などのサービス業で求人数が増加している。(労働局)
- スーパーマーケットなどの飲食料品を扱う小売業で求人数が増加している。(労働局)
- 雇用調整助成金の申請件数は減少傾向にある。(労働局)
- 客室の予約状況は好調で、主に接客部門で人手が不足している。(宿泊業)
- 来店客数が回復しつつあり、店舗で働くアルバイト社員が不足している。(飲食サービス業)

- **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
 - 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。
- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期
 - 非製造業で増益見込みとなっているものの、製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。
- **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数で見ると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。
- **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額で見ると、市町村は前年度並みとなっているものの、国、独立行政法人等及び県は前年度を下回っており、全体としても前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (4年7月判断)	今回 (4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。